

Workers+^{Plus}

ワーカーズプラス

Vol.3 動物病院の働き方改革

クリニックで働く方々に“プラス”になることをご紹介するコーナー。動物病院はハードな勤務になりがちですが、離職を防ぎ求人への応募率を高めるにはどうすればいいでしょうか。今回は都内で3院展開されている『銀座ペットクリニックグループ』様にお話をうかがいました！



銀座ペットクリニック院長
菅井 利浩 先生

ユニチャーム(株) ペット事業部商品開発部、都内動物病院勤務を経て、1996年より北千束動物病院を開業。続いて芝浦ペットクリニック、銀座ペットクリニックを開業。ペット実用書の監修などメディアでも活躍中。

<https://www.doc-ginza.com/>

<https://www.doc-ginza.com/recruit/> (リクルートサイト)

自分らしいライフスタイルで無理なく働き続けるために



動物病院なのに残業が少ない理由を教えてください。

外科がメインの動物病院で完全予約制ということもあって、残業は月平均5~10時間ですね。18時までに仕事を終えるには、一人ひとりが時間内にめいっばい頑張ること。チーム医療なので、しっかり考えて助け合うことが大事だと思っています。監督がすべて指示する野球型じゃなくて、それぞれがシュートを打ってくれるサッカー型です(笑)。



懇親会は帝国ホテルなど高級レストランへ、「当院はハイクラスの飼い主さんが多いので、サービスのスペシャリストから学ぶよい機会になります」。



動物業界も人手不足ですが求人の状況はいかがでしょうか。

コンサルタントのすすめでビスカリにリクルート専用サイトを作ってもらったら、お問い合わせがグンと増えましたね。獣医療業界は毎晩遅くまで働くことが多いので、効率的な働き方ができる当院に魅力を感じていただけるようです。セミナー代は全額負担しますし、無駄な検査や投薬はしない方針も決め手のひとつになっていると感じています。



3院全スタッフが集まって、会計士とともに決算報告会を行い、来期の目標を各自発表。そのあとは東天紅で中華のフルコースを楽しむのが恒例行事に。



有給率は100%、1週間の連続休みも取れるそうですが。

働き続けるためには、休む時にはしっかり休んで、趣味などを楽しむことも大事。私自身が一部上場企業で働いていた経験から、お盆や年末年始もカレンダー通りの休みにしています。有給も100%消化してもらっていますが、休む理由はわざわざ言う必要ないからねと伝えています。閑散期に1週間以上休める「リフレッシュ休暇」も好評ですよ。



フランスからワーキングホリデーで来た動物看護師を受け入れたことも、「富士山と桜が見たいというリクエストに応じて、富士ビューホテルに宿泊しました」



いろんな働き方をしているスタッフがいるそうですね。

勤続25年の人もいれば、結婚で辞めて戻ってきた人、週1回勤務の人もいて、それぞれのライフスタイルに合わせて働いてもらっています。女性ドクターもこれから産休・育休を取る予定。懇親会にはスタッフのお子さんも参加されたりと、家庭的な雰囲気ですね。これからも仲良く助け合い、高めあえる職場づくりを進めていきたいと思っています！



スタッフの誕生日には、正社員でもアルバイトでも分け隔てなく、三越のギフトカタログをプレゼント。「自分で好きなものを選ぶので喜ばれています」